

【7】 3.10 東京大空襲も忘れないで！

今年も3月11日の前後には、2011年3月11日の東日本大震災の地震と大津波の被害を改めて思いおこし、死者を悼み、防災意識を喚起するため、テレビの番組や新聞が特集を組んで連日伝えられました。

特に今年は元日早々、能登半島地震があったばかりで、その後始末や復旧事業の真っ最中ですから、なおさら緊張感があり、地震の恐怖を忘れるどころの話ではありません。

今日の話題はその3月11日ではなく、一日前の3月10日のことです。

昭和20年3月10日（1945年）、敗戦間近の東京の下町に米軍による大規模な空襲があり、10万人以上の死者を出しました。

これは、その後の8月の広島、長崎の原爆の被害に匹敵する、あるいはそれ以上の被害だったのですが、原爆の惨禍の方は人類史上の大事件として、原爆の廃止運動が国際的な動きにまで広がっていったのに対し、東京大空襲の方は知名度が低いのです。

当時、わが国の県庁所在地を始め、多くの都市がその被害の大小は別にして空襲を受け、空襲自体は珍しい話しではなく、首都ということで報道の抑制が図られたこと、敗戦後に米軍が一般市民を対象に計画的に空襲したことを隠したこと等もあり、忘れ去られがちな出来事となっています。

今年の3月10日にも、恒例の法要が東京墨田区の両国国技館近くの東京慰霊堂で行われました。

コロナ禍の後遺症もあり、200人ばかりのわずかな参列者と秋篠宮御夫妻と小池都知事が出席されました。

これを伝えるテレビニュースはNHKを除いて殆んど無く、新聞は記事にしましたが、3.11の記事に隠れて三面の片隅のまことに小さい扱いでした。

3.10と3.11の両方を知る高齢の私としては、3.11の思い出も70～80年も経てば、今の3.10と同じ状況になるのかと心配になります。